

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11099	2	後期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	精神看護援助論Ⅱ (精神看護) (Mental Health & Psychiatric Nursing Ⅱ)				
担当教員名	○廣島麻揚／秋山美紀／林世津子／阿達瞳				
授業の概要及び到達目標					
<p>本科目では、精神的健康に問題を持つ対象とその家族の理解、問題状況への危機介入から地域社会生活への適応に向けた精神看護援助技術の基本、および精神障がい者とその家族を対象にした様々な援助技法（あるいは回復を助ける方法）を学ぶ。授業方法は、講義やグループワークである。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神的健康に問題を持つ対象とその家族について、理解を深めることができる ・精神科治療と看護の役割が説明できる ・治療的対人関係構築のための基本技術を理解できる ・精神的健康に問題を持つ人と家族の回復を助ける方法を理解できる ・ペーパーペイシエントを用いて精神的健康に問題を持つ患者のアセスメントができ、看護の方向性が記述できる 					
準備学習等					
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の受講前に、前期「精神看護援助論Ⅰ」で紹介するビデオを見て指定の課題に取り組むこと。(必要目安時間：4時間) ・毎回復習すること。そのうち、第3回、第10回、第11回、第12回及び第13回の授業では、授業で行った内容に関するレポート課題を出すので、必ず課題を確認すること。(必要目安時間：20分×15回) ・第8回及び第9回は、予習課題を出す予定である。グループ学習を効率的に進めるために、必ず各自で課題を行って演習に臨むこと。(必要目安時間：4時間) ・本講義の復習をして、精神看護学実習に活かすこと。(必要目安時間：2時間) 					
成績評価の方法	<p>【筆記試験】50% (全授業の終了後に行う)</p> <p>【課題レポート】50% (精神看護援助論Ⅰ最終回、第13回の各講義で課題を提示：10%×2回 + 第3, 10, 12回の講義で課題を提示：5%×3回 + 第11回の講義で課題を提示：15%×1回)</p>				
テキスト	<p>「精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」(田中美恵子：医歯薬出版、2015) (ISBN:978-4263236734) ※</p> <p>「精神看護の基礎〈1〉(系統看護学講座 専門分野)」(武井麻子：医学書院、2017) (ISBN:978-4260027731) ※</p> <p>「精神看護の展開〈2〉(系統看護学講座 専門分野)」(武井麻子：医学書院、2017) (ISBN:978-426027748) ※</p>				

参考図書	<p>「看護診断にもとづく精神看護ケアプラン 第2版」(ジューディス M.シュルツ他：医学書院、2007) ※</p> <p>「精神疾患の理解と看護ケア(精神看護 QUESTION BOX2)」(岩切真砂子：中山書店、2008) ※</p> <p>「看護のための精神医学 第2版」(中井久夫：医学書院、2004) ※</p> <p>「精神科・治療と看護のエッセンス」(市橋秀夫：星和書店、1981) ※</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の単位取得は、精神看護学実習の前提条件になっている。 ・本科目の受講にあたっては、精神看護援助論 I を履修していることが望ましい。 ・各教員のオフィスアワーについては、看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 ・第 11 回講義時に提示するレポートについて、記入例を後日配布しますので、振り返り学修に活用する等よく復習した上で試験に望んでください。 ・課題レポートは、精神看護学実習の履修前を目途に返却しますので、実習に活用してください。
授 業 計 画	
<p>第 1 回 治療的關係，患者－看護師關係およびプロセスレコード（廣島）</p> <p>第 2 回 精神科治療と看護の役割①：人権と安全を守る看護（林）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療的環境と自己決定支援 ・隔離・拘束における看護と事故防止（自殺・暴力・離院） <p>第 3 回 精神科治療と看護の役割②：人権と安全を守る看護（林）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科における倫理的葛藤 ・臨床倫理の 4 分割法を用いた事例検討 <p>第 4 回 精神科治療と看護の役割③：薬物療法と服薬自己管理（廣島）</p> <p>第 5 回 精神科治療と看護の役割④：精神療法・社会療法とチーム医療，および精神障がい者の家族（廣島）</p> <p>第 6 回 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論およびストレングスモデル（廣島）</p> <p>第 7 回 事例検討①（対象理解）（廣島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を用いて、対象理解を深める <p>第 8 回 事例検討②【グループ演習】（セルフケアアセスメント）（廣島）</p> <p>第 9 回 事例検討③【グループ演習】（強みのアセスメント）（廣島）</p> <p>第 10 回 精神科治療と看護の役割⑤：社会生活技能訓練（SST）（廣島・SST 認定講師）</p> <p>第 11 回 事例検討④【グループ演習】（看護援助）（廣島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の強みを活かした看護援助，関わり方の検討 <p>第 12 回 WRAP（上手な自分の助け方①）（秋山・廣島・WRAP ファシリテーター）</p> <p>第 13 回 精神看護におけるコミュニケーション技法（秋山）</p> <p>第 14 回 レジリエンスとは？（秋山）</p> <p>第 15 回 レジリエンス（上手な自分の助け方②）（秋山）</p>	